

日吉津村自治基本条例策定委員会（第5回）議事録

日時：11月21日（水）午後7時30分～9時30分

場所：役場第1、2会議室、第3会議室、委員会室

出席者 田中委員長、山路副委員長、長谷川委員、松岡委員、河中委員、住田委員、西委員、三島委員、建部委員、破戸委員、田邊委員、高森委員、土井委員、川原委員、

欠席者 山崎副委員長、池田委員、奥田委員、松本委員、成瀬委員、井上委員
事務局 前田課長、高田課長補佐、福井主査、矢野係長

委員長あいさつ

前回と同様に行ないながら、引き続き行う。

協議

（事務局）

- ・先日、京都府南山城村の議会が視察に来られ、行財政の見直しを含め自治基本条例に取り組んでいる旨説明を行なった。
- ・資料説明...事務局で3回目までに討議いただいた意見を条例の比較表にあわせて区分ごとにまとめた資料と参考資料(生野の条例)提示。
- ・前回に引続きグループ討議を行なう。午後9:00から全体会議。
- ・第4回議事録について、ご意見等があれば11月30日までに。ご意見が無ければHPへ掲載する。
- ・視察研修について説明。11月25日に兵庫県朝来市生野に日帰り。

自治基本条例の内容の検討について

グループ討議

検討資料（各委員意見集約）での討議について

グループ1

地域

アパート住人の自治会加入

- ・今吉は6～7割が自治会加入している。自治会のまつりやスポーツフェスティバルなどのイベントへの参加も多い。ただしアパート内に空き家も増えた。
- ・自治会加入が目的ではなく、自治会活動への参加が目的。参加しやすい雰囲気づくりやきっかけが必要だと思う。今吉の例は楽しみながら参加を促している。ある町では球技大会への参加促進のために勝敗を競うのではなく、誰でも参加し楽しむために、例えば卓球で、相手が打ちやすい球を返し、相手がミスをしないうようにさせるルールにしたところ、参加者が増え、

笑い声の多い大会となったと言う例がある。

個人情報保護

- ・情報取得が難しくなった、特に民生委員の活動において。

コミュニティ活動の原点は、

- ・非常時に近所同士（数件程度）が確認しあえるシステムの構築が必要。自治会の班を細分化した程度のグループ単位で。
- ・近所同士、仲が悪い場合もある。
- ・村八分という言葉があるが、例えば悪いが非常時は残りの二分の中に入ると思う。このシステムを構築する課程で少しでもコミュニケーションづくりのきっかけにはならないだろうか。

自治会の区域割

- ・自治会の区域が入り組んでいたりして、不明確の場合がある。どこかの時点で、道路などで区域割を検討する必要がある。分家などにより隣の自治会の区域に家建て、自治会は出身の自治会に入っている場合もある。葬儀、子ども会、ゴミ置き場等の問題が生じている。自治会にこだわりがあるのは、当該の世代だと思ふ。世代交代等を期に正規の自治会に編入し、すっきりさせた方がよいのでは。

自治会役員を決めるのが難しくなった。

- ・役員、特に自治会長の負担が大きくなってきている。役割分担の見直しが必要ではないか。役割を分担し、多くの役員や会員に共通認識を持ってもらえば、一部役員の負担も減るのではないか。
- ・自治会ではないが民生委員も大変だ。

自治会公民館の活用

- ・日吉津上口 1 区では、夏休み期間中のみ開放した。
- ・管理の問題が難しい。
- ・自治会内で、少しでも管理できる人を探しだし、全ての人を館長として、それぞれ交代で都合のつくときに出てもらえばなんとかならないか。またその場合は 1 人ではなく複数であれば話などもでき、地域の交流の場として位置付けもできる。

その他

安全・安心して住める村であってほしい。

- ・これまで信号機は、事故の実績がないとできない。後手後手の対策となっている。11 年間死亡事故 0 の村だ。地域での安全点検・要望により事前対策が必要。消火栓も同じことで、点検・訓練により問題点を把握し、事前の対策が必要。

情報共有

- ・行政からの住民への情報提供の内容は難しい内容のものが多く。情報の内容をわかりやすく公開する必要がある。例えば財政分析等の資料（歳入・

歳出)を一般家庭の家計簿に置き換えて説明している自治体もある。行政用語は一般の人にはわかりにくい面が多い。内容が分からなければ情報共有にはならない。

シンボルマークのチューリップ

- ・旧伯太町では、チューリップに行政が補助し、維持している。
- ・日吉津村でも今年度は補助金を予算化し、チューリップの維持を行う。せっかく「日吉津村=チューリップ」のイメージが定着している。なくすのは簡単だが、定着するまでは時間もかかっている。村民議論の上、必要ならば金をかけても維持するものは維持する必要がある。
- ・村民のチューリップへの意識はどうか。他人事ではなく、一人ひとりがプランターでも栽培すれば、維持できるのではないか。そんなに手間も金もかからない。

村としての表彰

- ・スポーツなどで全国大会に出場する選手を応援する垂れ幕が役場に掲示されていた。大変いいことだと思う。いいことはどんどんピーアールすべき。費用はどうしているのか。
- ・調査してみる。...調査結果 有志で資金をだしている。

グループ2

- ・前回までで行政・議会・村民・地域・その他の全体を通した討議は終了したが、もう一度全体を見て追加意見等があればお話頂く。(意見が無くとりあえず終了)次に、今回の検討資料(第3回までの意見集約したものを条例の区分ごとに振り分けたもの)をもとに討議する。
- ・ここには委員の発言が出ているが、余り根拠を持たずに直感で意見を言っている。データに基づいて意見を言わなければならないのではないかと思うが、色々なデータを持っていたり、現在の問題点や将来の問題点を感じているのは職員である。我々委員の意見も重要であるが村当局の考え方も反映させなければならないと思う。何か片面だけで行なっているように見えるが。
- ・職員プロジェクトも同様なやり方で行なっている。いずれこの策定委員会の意見と照らし合わせて進んでいく予定。住民の意見をベースに行政側の意見も加味していくことが重要。
- ・職員での目でしか見れない部分があり、良い面もあれば悪い面もある。住民の委員皆さんの意見を聞いて、住民の視点に立たないといけないと感じる。いずれプロジェクトと策定委員会と突合せ、住民の意見を重視しながらやっていく必要があると思う。策定委員会の雰囲気等もプロジェクトに伝えていかないといけないと思うし、住民で構成される策定委員会あつての条例でなくてはならないと思う。
- ・とにかく両面から話をしていけないといけないので、行政から情報を出し

ていただくことが必要と思う。

前文…地域の特性

- ・ブランドづくりのブランドとして何を出すかということだが、物を出すと認めることができる施設、例えば「ふれあい生活館」などを拠点としてトマトケチャップなど特産物を出してあげたらと思うが、行政は関わってもらえないものか。行政の後押しが必要と思う。せっかくの施設をもっと活かさないかを感じる。
- ・特色のあるふれあい生活観の活かし方を考えるということ？
- ・特産物を開発し、ブランド化する必要があるということだと思ふ。そして特産物を出すと認めることができる施設、例えば「ふれあい生活館」の活用が必要ということ。
- ・やるのはみんなで作るが、仕掛けを行政がしてもらえばということだと思ふ。
- ・まとめると、ブランドづくりは大変必要だし、つくっていかねばいけぬ。それをするために既存の施設を活用していくことはできないか。ブランドづくりは住民が行なっていくが、行政も応援してくれないかということだと思ふ。
- ・要は、地域の特性でブランド化をすすめるという言葉の中で色々な方策として考えるということだと思ふ。条例の条文にすべて入るわけではないが、例えばブランド化をすすめるという条文があって、その方策がふれあい生活館を活かして先程のやり方をしていく。行政と住民が役割分担を考えた中でやっていくというのは次の段階で。
- ・だんだんと条例とリンクしていくのが見えてきた。
- ・産業の面が一つ出たが、教育の面で「ガッツ日吉津っ子」を何とか活かすことが出来ないかと思ふが。
- ・日吉津にしかないことは入れていくべきという意見だと思ふ。
- ・チューリップというものが日吉津のシンボルとなりうるかという疑問も持つが…。村の花とはいえ、実体が無いものとなってきている。
- ・現在村の花となっているので、それを継続するのかまったく違ったものに変えるのかということだと思ふが。
- ・現状を考慮しつつ、日吉津のシンボルというものを改めて検討する必要があると思ふ。
- ・委員会の意見として、村の花としてのシンボルマークチューリップが必要だということを特性にあげなければならないかもしれないし、違った意味でのイメージづくりを新たに考えていく必要もあるということ。
- ・懸念されているのは、条例に危ういチューリップをシンボルとして載せたらまずいということだと思ふ。
- ・ブランドは必要と思ふが、物としてだけではなく地域性としてのブランドも必要であると思ふ。むらであってむらでない、県内で一番小さいむらな

ど場所の特性を活かしたブランドが必要ということ。

- ・みなさんの意見として、ブランド化は載せるべきということで確認を頂いた。
- ・前文にはもっとも重要なものを載せるべき。ブランド化や自然のほかに村民が目指すものを載せるべきと思う。
- ・外から見た印象では、人としては感じないが、村としては王子製紙・イオンの誘致など大胆なことをやってきたと感じている。
- ・昔から単独で生き残っていくために努力をしてきた。
- ・村誌にも載っている。
- ・先人の努力を讃えるということも良いのでは。
- ・このようなことが前文に載ってくればまた面白いのではないか。

前文...地方自治・まちづくりの実現

- ・先程出た意見の、村民の目指すものやガッツ日吉津っ子もこの中に含まれるかもしれない。
- ・前文は、地域の特性や地方自治・まちづくりの実現にこだわらず、日吉津として載せるものがあれば載せていくということ。あくまで比較表は、参考ということで。
- ・村民憲章とかはどういうところに載せていけば良いのか。
- ・他町では自治の基本理念等に載っているようなので、理念的なものになるのでは。
- ・前文の中にいかに村としての特色を入れるかということだと思う。例えば「明治22年の村制施行以来単独で...」というようなことを載せることも考えられる。
- ・それは特色だと思う。その結果が鳥取県唯一のむらとなったということではないか。
- ・みなさんの意見の中には、前文に載せるようなことがほとんど出ていると思う。
- ・前文にはむらの自慢のようなものを載せていけば良いと思う。

自治の基本...自治の基本理念・原則

- ・ここに載っている良い風土づくりや住みよい村などの意見のほか、先程の村民憲章や日吉津は良いところだというようなところを入れていけばと思う。
- ・理念という部分では、少し硬い表現となっても致し方ないと思う。

グループ3

- ・今までどおり、思いついたことから意見をお願いする。
- ・日吉津をブランド化し、「日吉津だからできること、これは日吉津のメリットだ」など、ここだけは条例に入れなければならないというものを選んでみてはどうか？日吉津はしがらみは強いかもしれないが、風光明媚な場所

だと思う。

- ・米子の人が日吉津をうらやむ。ジャスコなど遊ぶ場所があったり、死亡事故がなく、暮らしやすそうな自治体に見えるようだ。今後もアパートが建っていくだろう。農業振興地域の規制も何年か先には解除されるのではないか。
- ・現在日下にアパートが建ち並んでいる。しかし悩みも抱えているようだ。
- ・米子市は、公民館活動（公民館祭りや料理教室など）が充実。盆踊りとチューリップマラソンは中央公民館で実施し、それ以外（村民運動会など）は自治会に投げ出していいと思う。自治会で企画し、競わせるのも手だ。いかに自治会加入を促進していくかも問題だ。行事の際に勧誘してはどうか。
- ・ケーブルテレビ3チャンネルを見ると、どの自治会も賑やかだ。今吉は夏祭りの時に勧誘している。以前の今吉は、転入してくる人の多い時期だったが、今は子どもが大きくなり、村外に出て行く時期になっているようだ。なぜ日吉津にとどまらないのか。
- ・米子に次々とマンションが建っている。売りに出すとすぐ完売。賃貸で払い続けるより自分の城を築きたいのでは。日吉津は交通の便がよい。静かだし、規制が外れれば日吉津は人気だ。
- ・合併後のアンケートでは開発賛成派、反対派とあった。
- ・しがらみは都会でも同じだ。日吉津は日吉津で良いところを見つけていくようにした方がいい。それにはコミュニティを進めていかなければ。
- ・米子市祇園町の自治会費1万円。高い割に日吉津の活動の方が多気がする。
- ・街はコミュニティというより、川ざらいなどの役目の部分が多いように思う。コミュニティを一生懸命している人が次の人にバトンタッチできるか心配することもある。役があたっている間だけ（義務感）の活動ではうまくいかないだろう。
- ・合併議論後、父が自治会の話をするようになった。今までになかったことだ。
- ・仲良しの人が参加していれば自治会活動に出席するかも。また、頑張っている人がいれば引き継いでくれるかも。
- ・放っておいても、出てくる人は少ないだろう。
- ・子どもがいると影響力が大きいのではないか。
- ・子どもがいると行事に参加してくれる。それ以外の世帯をどう巻き込むかが問題。してもらうのは当たり前だが、してあげるのは難しいようだ。環境づくりが必要。
- ・延藤先生がマンションで祭りを開催。当時、小さかった子どもが大人になって故郷のマンションに帰りたいと声をあげている。子どもがいなくて、

周辺のお母さんをつながりを持ってなかった人があった。その人は損をしたと言っていた。

- ・男性は定年してやっと地域に戻る。
- ・最近、お父さんの参加が多い。特に今吉のお父さん。
- ・男性も子育てを通じて地域にデビューする人が増えている。
- ・母も仕事を始め、おばあさんが連れてくるという話はよく聞いたが、今は男性が協力してくれるみたい。
- ・まだおばあさんも仕事をしていて忙しい。
- ・そういうことを前提にしてコミュニティも考えていかなければならない。
- ・男性の料理教室と銘うって飲み会でも始めれば、何年か後には満遍なく出てきてもらえるようになるのではないか。会を運営するにあたり、会合をたくさんして、たくさんの人と顔見知りになってからの方がスムーズにできるだろうに。
- ・老人クラブでは「 をしよう」と企画したら、後は役員らが動いてくれる。
- ・汗をかく人が大変だ。
- ・会に所属すると役がまわってくる。それがネックになって加入されない。老人クラブもそうだ。
- ・近所の人と関わりをもてて良かったという人もある。
- ・地域での会話がまだある日吉津はゼロからのスタートではないのでやりやすい。疎遠なところは大変だ。「役員がいつも同じ顔ぶれ」という項目があった。今年のチュ－リップマラソンに参加し、役員の中に新しい顔ぶれが2～3人あった。新しい人が少しでも来てくれればそれで良いのではないか。
- ・何年も役員として協力してもらっていると、やらされている感があるようだ。
- ・チュ－リップマラソンに欠かせないチュ－リップがない。マラソンの実行委員が各自治会にいてもいい。プランター植えをしているが、自治会内に委員がいればもっと働きかけができると思う。
- ・年間を通じてマラソンを盛り上げる機運も大切だ。
- ・ターゲット・バードゴルフの時もペチュニアを植えた。「マラソンは日吉津のイベント」という気持ちに住民がなってくれればいいのだが。
- ・日吉津で花づくりが成功すると見栄えがする。1戸が1～2個作り、家の前に置くだけでもすごい。
- ・広報を隅から隅まで見ていない人が多い。プランター募集も知らない人があった。
- ・無線もだ。プランターは後押ししてくれる人がいれば違う。去年は館長から直接依頼があった。

全体会 2 1:1 0 ~

グループ 1

- ・ひと通り全部終わった。特に「公民館に鍵がかかっているが…」ということについて、管理が難しいが自治会ごとに館長を設置したらどうかという意見があった。

グループ 2

- ・最初に、全体についてほかの意見が無いか確認。その後区分ごとの検討資料をもとに話し合った。
- ・まず、住民と行政のそれぞれの意見をすり合わせることを確認。
- ・前文については、これが日吉津だということ載せたらという意見だった。特産物やガッツ日吉津っ子、村民の目指すものを載せる。理念では村民憲章でも載せたらと言うことだった。

グループ 3

- ・全体を通してというよりもやはり大事なものは、コミュニティ活動。一番難しくて大事ということであり、そのことについて議論を深めた。

その他

(事務局)

- ・今度視察(11/25)に行く生野は、自治基本条例が2002年制定。その制定の前に小さなコミュニティ活動がユニークに行なわれている。住民と行政と一緒に知恵を出し合ってやっていくというやり方を、町長が変わろうが誰が議員になろうかそういうシステムを残していくために、自治基本条例を制定されたということである。
- ・視察については、日程を送っているが確認頂く。
- ・今後はどう進めるか。とりあえず、グループ討議が終了したようだが再度全般を見てみる必要がある。その他、例えば、行政のみ議論したり、次に議会のことで議論したりという風に考えているが。皆さんでご意見があれば...

(委員)

- ・全体討議より、グループが良いと思う。あるグループは行政と議会、あるグループは住民と地域というようなやり方もある。
- ・グループの再編も考えた方が良いと思う。

(事務局)

- ・住民への啓発はどういうやり方があるかなどのテーマも出てくると思うので、部門だけでグループ分けするのではなく色々な方法もある。
- ・とりあえず、今までの意見を踏まえながら今後の進め方について考えていければと思う。
- ・事前に意見があれば、メールなり電話していただければ...

- ・議事録（第4回）については11/30（金）までに修正があれば連絡頂く。
- ・次回は、12/21（金）19：30～中川アドバイザーをお迎えし開催する予定だが、その前に1回行ないたい。後日、委員長と相談の上連絡するという事で。

閉会